



テーマは

「まちと協奏するみどりの中の音楽大学」

第28回 緑の環境プラン大賞 「おもてなしの庭」部門

大賞受賞

「おもてなしの庭」とは

公益財団法人都市緑化機構主催の「緑の環境プラン大賞」は、1990年に開催された「国際花と緑の博覧会」の理念を踏まえて創設されたもの。今年は第28回を迎え、みどり豊かな都市環境で育まれる人と自然とのふれあいや、コミュニティ醸成等の実現に資する緑化プランを選出し、その実現を助成しています。

「おもてなしの庭」部門は、2015年から2020年に向けた特別企画。エリアは東京都内限定で、「花と緑で観光客を迎える」「おもてなしの活動」に関する



「都市の緑三賞表彰式」2017年12月4日(月) 明治記念館

るアイデアを盛り込んだプランが対象です。昨年度は「日比谷公園おもてなしのバラ園」が受賞し、回を追うごとに注目度が高まっています。

今年度は、応募書類による一次審査に25日に二次審査が実施され、10月17日、2019年4月開校予定の本学、中目黒、代官山キャンパスの大賞受賞が決定しました。12月4日、明治記念館(東京都港区)にて国土交通大臣はじめ関係各位臨席のもと表彰式が催され、本学の鈴木勝利理事長に表彰状が授与されました。

■花とみどりと音楽で
人々をおもてなし。
地域に愛される
キャンパスを目指す

今回本学は、新キャンパスの全体テーマ「まちと協奏するみどりの中の音楽大学」のもと、代官山と中目黒の両エリアを結ぶ旧鎌倉街道(目切坂)である、「みどりの鎌倉街道」を応募対象範囲にしました。源頼朝が開いた幕府へ通じる鎌倉街道と、武藏野の森の再生に着目し、長年にわたり地域から愛され続けてきた樹木の保存・移植・挿木により遺伝子継承したりながら、多くの樹木・草花の植樹・植栽計画によって四季折々の風景を楽しむ

ことができるでしょう。そして、それらみどりとそこに集まる四季折々の昆虫や鳥等の生物たちからのおもてなしに加え、東京音楽大学ならではの音楽文化の発信は地域コミュニティを形成し、音楽が街全体にあふれます。「音楽」と「みどり」「生物」が一体となり、そこを訪れる人々を手厚くおもてなしするのです。

今回の本学のプランでは、「都心にも関わらず豊かな自然を創造し、その中で音楽教育により人を育成する」という、今までにない斬新なアプローチであるこの「音楽を中心とした地域交流を図るエリアマネジメントが秀逸であること」が高い評価を受けました。そしてそこには、竣工後は新キャンパス全体を利用することで、東京音楽大学が地元と共に周辺地域を盛り上げてほしい、そんな熱い想いが込められています。

末永く安らぎと親しみの持てる場所になついくことを期待しています。現在、平成31年4月の開校に向け建設が進む新キャンパスの計画では、みどりの鎌倉街道を含め、オーケストラ広場や音楽ホールなどが開放されることで、地域交流や回遊性が高まります。また、区民向けの音楽教育や音楽イベントの開催など、音楽大学の特徴を生かしたさまざまな取組が始まろうとしています。目黒区といたしましても、新キャンパスのコンセプトである「まちと協奏する」音楽大学と連携・協力しながら、大学と区民が共に学び合い、皆が響き合えるまちづくりに取り組む所存です。

3

中目黒・代官山新キャンパス